

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 109

江戸川区立西小松川小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	70	64	70	令和8年度の目標	65.3	71.4	69.9	67.9	66.3	66.3	69.9	63.6
令和7年度の結果	-4	+1	-3	令和7年度の結果	+2.8	-0.7	+4.2	+6.3	+4.8	+5.1	+1.9	+8.3
令和6年度の結果	-4	-4	-8	令和6年度の結果	+4.5	+2.4	+8.3	+10.5	+0.1	+3.3	-4.0	-0.1
令和5年度の結果	+4	+3	+7	令和5年度の結果								

年度	令和7年度		令和8年度			
内容	成果と課題		目標		目標達成に向けた取組	
学校全体	<p>【成果】 各教科で、UDL(学びのユニバーサルデザイン)により、児童が学習方法を選べるように授業準備したことにより、多くの児童が主体的に授業に参加し、すすんで学習することができた。</p> <p>【課題】 高学年はタブレットを活用して学習に取り組むことが多かったため、文字を手で書く機会が少なくなりました。文章を手書きすることへの抵抗感が増し、文章を書く力も低下してしまっています。</p>		<p>○UDLの取り組みを継続し、学び方を自ら考える児童を育成する。</p> <p>○書く力とタイピングの力を共に伸ばせるように、タブレットの活用の仕方を工夫する。</p> <p>○区の学力調査の結果等で、学年の苦手分野を分析し、日々の学習や復習重点期間が補強する。</p>		<p>○教科担任制による授業を年間を通して行い、教材研究が十分に行えるようにする。</p> <p>○授業でのタブレットの適切な活用を進める。</p> <p>○放課後算数補習教室を活用して算数の基本的な知識・技能を習得させる。</p> <p>○「江戸川区学習定着度調査」や「全校一斉算数テスト・全校一斉漢字テスト」などの結果を基に、全体や個別で下学年の学習を行う。</p>	
第1学年	<p>【成果】 ノートに書いたり、自分に合うプリントを選択したりと様々な方法で学習に取り組んだ。また、ひらがなの丁寧な指導により、書くことの練習をした。</p> <p>【課題】 全校一斉漢字テストでは、平均点86点だが、90点の合格率では40.6%と半数近くが合格点をとることができなかった。</p>		<p>○宿題や学校での学習を通して、様々な方法での学習習慣を身に付ける。</p> <p>○漢字や計算など確実な定着を図る。</p>		<p>○家庭と連携し、宿題に毎日取り組む習慣を身に付ける。</p> <p>○個人面談や保護者会を通して、児童の学習状況について家庭との確認を行い、必要であれば個別での指導を行う。</p> <p>○2学期からは放課後算数補習教室を行い、早い段階でつまづきをなくすよう、個別指導を充実させる。</p> <p>○漢字や計算など学校や家庭学習で繰り返し取り組むことで、つまづきを減らす。</p>	
第2学年	<p>【成果】 デジタルドリルを活用し、繰り返し学習する習慣が身につけてきた。また、学年末には九九のテストに取り組み、基礎基本の知識を定着させた。作文指導では、手本を示したり、書く量の目標を示したりしてイメージを持たせながら進めたことで文章を書く力が伸びている。</p> <p>【課題】 全校一斉漢字テストでは、平均点81点だが、90点の合格率では52.3%と半数以下が合格点をとることができなかった。</p>		<p>○宿題や学校での学習を通して、様々な方法での学習習慣を身に付ける。</p> <p>○漢字や計算などの1年生から学習を積み重ねていく学習を重視し、定着させる。</p>		<p>○毎日の宿題だけでなく、週末のデジタルドリルを課題とすることで、学習する機会を増やし、習慣化させる。</p> <p>○放課後算数補習教室では、前年度の学習から見直し、基礎基本の学習を定着させる。</p>	
第3学年	<p>【成果】 江戸川区学力調査の結果では、国語科は全ての領域で全国平均を上回ることができた。</p> <p>【課題】 江戸川区学力調査の結果から、算数科では、「数と計算」の得点率が低かった。また、算数科のCD層が合わせて54.7%もいた。九九の習得や繰り下がりの引き算が十分に身につけていない児童への手立てが不足していた。</p>		<p>○算数科の基礎基本問題から取り組み、計算を解く力をつける。</p> <p>○算数では、C層を中心として指導を行い、C層をB層に引き上げる</p>		<p>○放課後算数補習教室では、C層を対象として科学年からの学習を見直し、改めて基礎基本の学習を定着させる。</p> <p>○デジタルドリルや計算ドリル等、家庭で基礎基本の問題に取り組む機会を増やす。</p> <p>○算数の学習では少人数において、D層のクラス人数を減らし、より手厚く見る。</p>	
第4学年	<p>【成果】 放課後算数補習教室を活用し、個に応じて基礎基本の練習問題に取り組むことで、学習の定着を図った。そのため、江戸川区学力調査の結果では、算数科の全領域で全国平均を上回った。また、昨年と比べ、CD層が減り、A層が増えた。</p> <p>【課題】 江戸川区学力調査では、国語科のA層が減ってしまった。よむYOMUワークシートを効果的に活用できなかった。</p>		<p>○国語科では「言葉・情報・言語文化」の力を育てるために、漢字や語彙を獲得する。</p> <p>○国語科の文章を書く力を伸ばす。</p>		<p>○デジタルドリルを活用し、漢字を繰り返し練習し、身に付ける。</p> <p>○「読書科」や朝読書の時間を通して、文章を読む機会を増やし、語彙を獲得する。</p> <p>○宿題の首読をすることで、児童の文章を読む力や語彙力を家庭でも確認してもらい、学校と家庭が連携して指導できるようにする。</p> <p>○よむYOMUのワークシートを使い、自分の意見を書く機会を増やす。</p>	
第5学年	<p>【成果】 UDLや自主学習を通して、学習する習慣が身についた児童が多く見られた。そのため、算数科では自ら基礎の問題に取り組む、国語科では漢字や文章を書く練習などを行っていた。江戸川区学力調査の結果では国語算数両方の全領域で全国平均を上回ることができた。</p> <p>【課題】 学力層のCD層が増え、A層が10名程度減ってしまいった。家庭と連携した、自主学習への働きかけが不十分だった。</p>		<p>○国語科では「書くこと」を伸ばす。書く技能や意欲を伸ばす。</p> <p>○算数科では「数と計算」で基礎基本でのミス減らし、力を伸ばす。</p>		<p>○「読書科」や朝読書の時間を通して、文章を読む機会を増やし、語彙や文章の表し方を身に付ける。</p> <p>○UDLを通して、考えを表現することへの抵抗感を減らし、書く力を伸ばす。</p> <p>○放課後算数補習教室では、C層を対象として科学年からの学習を見直し、改めて基礎基本の学習を定着させる。</p> <p>○算数の学習では少人数において、D層のクラス人数を減らし、より手厚く見る。</p>	
第6学年	<p>【成果】 放課後算数補習教室を活用し、個に応じて基礎基本の練習問題に取り組むことで、学習を定着することができた。そのため、江戸川区学力調査の結果では、算数科の全ての領域で全国平均を上回ることができた。</p> <p>【課題】 江戸川区学力調査の結果から、国語科では、「書くこと」の得点率が低かった。日々の学習の振り返りやよむYOMUワークシートで自分の意見を書く機会を生かすことができなかった。</p>		<p>○国語科の書くことへの抵抗感を減らし、文章を書く力を伸ばしていく。</p> <p>○国語科、語彙や漢字を身に付けていく。</p>		<p>○日常的な日本語の活用だけでなく、読書などを通して専門的な言葉や文章に触れることで、語彙を増やしたり読む力を育てたりする。</p> <p>○よむYOMUワークシートを用いて文章を読み取りを定期的に練習をする。</p> <p>○外国籍児童が学習に取り組むやすいよう、日本語指導の教員と連携を図る。</p>	